



(佐賀)

吉野ヶ里遺跡群は、佐賀平野の中央東寄り、脊振山地南麓から南へ細長く派生する吉野ヶ里丘陵周辺に点在する遺跡群の総称である。一帯が工業団地として造成されることになり、一九八六年度から三カ年計画で発掘調査を実施している。初年度の調査の結果、弥生時代～古墳時代の集落・墓地とともに、

佐賀・吉野ヶ里遺跡

- 1 所在地 佐賀県神埼郡神埼町大字鶴・大字志波屋
- 2 調査期間 一九八六年(昭61)五月～一九八七年三月
- 3 発掘機関 佐賀県教育委員会
- 4 調査担当者 七田忠昭・森田孝志・田島春巳・草野誠司・田代成澄・桑原幸則
- 5 遺跡の種類 墓地・集落跡・官衙跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～奈良・平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

古墳時代後期～奈良時代・平安時代前期の掘立柱建物(二〇〇棟以上)・井戸・古代駅路などが検出された。木簡は奈良時代後期の井桁状に組んだ木枠をもつ井戸から出土した。

団地予定地西隣で、ほ場整備事業に伴い実施された発掘調査の結果を踏まえると、駅路を挟んだ南北約一・五km、東西約〇・六kmの広範囲に建物群が多数存在し、大規模な建物群が計画的に配置された区域がいくつか存在することが判明した。また出土遺物の中には多数の墨書・篋書土器(「厨鉢」「福得」「神人」「石井」「池」「城」「田」など)、陶硯、水滴、青銅製帶金具などがあり、周辺一帯に神埼郡衙あるいは神埼駅家が存在した可能性が強まった。なお、吉野ヶ里遺跡群の北東部には奈良時代の辛上廃寺が存在する。

8 木簡の积文・内容



(七田忠昭)

(1) ×□大嶋一斗二升

(106)×(29)×4 081